

民生委員・児童委員活動の功績を称え ～厚生労働大臣表彰～



小原イトさん（上）と越善勇一さん（下）

5月9日（月）、小原イトさん（石蔵平）、越善勇一さん（野牛）に、越善靖夫村長から厚生労働大臣表彰が伝達されました。

「民生委員」は厚生労働大臣から委嘱され、地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、社会福祉の増進に努める方々であり、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援等を行う「児童委員」を兼ねています。

お二人は、昨年12月の民生委員・児童委員一斉改選において、民生委員・児童委員を退職されましたが、小原さんが25年、越善さんは21年と多年にわたり、地域の社会福祉の向上、民生委員活動に尽力された功績が認められ今回の受賞となりました。

これまで長年にわたり社会福祉事業にご協力いただき、本当にありがとうございました。

大きくなって帰ってきてね！ ～東通小学校2年生によるサケ稚魚放流～



サケについて勉強しました！



元気に育つようお願いを込めて放流！

5月12日（木）、老部川内水面漁業協同組合の協力により、老部川において、東通小学校2年生49名によるサケの稚魚放流（約40万尾）が実施されました。

今回のサケ稚魚放流は、放流を通じて、子ども達にサケの生態について関心を持たせるとともに、やさしい心で動物や植物に接し、自然を愛する心を育むことを目的に実施されました。

放流の前には、むつ水産事務所の山田主査より、サケの成長や放流の仕方について説明があり、子ども達は「サケは1回にどのくらいの卵を産むの？」「サケの赤ちゃんはどんなえさを食べるの？」と次々と質問し、サケの生態について勉強しました。

放流の際には、最初は水際に近づくことにとまどいながらも「大きくなって帰ってきてね！」「ほかの魚に食べられないでね！」と稚魚に向かって元気に声をかけながら放流していました。

子ども達は、海へ向かって元気に旅立っていく稚魚を、放流が終わってからもしばらくの間見守っていました。